

志行力

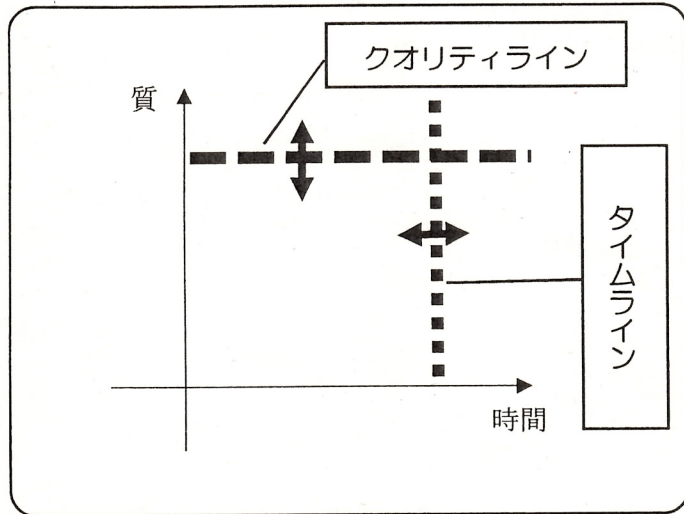
平成29年11月8日(水)

また、素晴らしい出会いがありました。11月3日(金)～5日(日)の3日間、仙台育英学園秀光中が招待試合として、富山県に来て、各地区の優勝校と試合をしました。3日に懇親会があり、秀光中の須江先生(監督)と話す機会がありました。仙台育英秀光中とは、ここ5年間、連続で全中(全国中学校軟式野球大会)に出場しており、2014年は優勝、15年は準優勝、16・17年は3位という素晴らしい成績を残しているチームです。そんなチームの監督さんと話ができるなんて…と、とってもワクワクしていました。

いざ話をすると、その凄さに圧倒されました。まず、誰と話をしていても、また、どんな質問をされても、言葉に詰まることがなかったです。それだけの知識量、経験が物語っていますね。なぜ、そんなに知識(情報)が頭に入っているのか、尋ねてみました。すると、「ここにいる誰よりも、〇〇講演会とか△△勉強会とかいうものに、数多く足を運んでいる自信があります。」とハッキリ言われました。また、「分野

やジャンルは問いません。」とも言われました。野球だから、野球に関係ある講演会…ではなく、どんな分野の話も聞いても、必ず通じるものがある、という意味です。そして、誰かは教えてくれませんが、「私が一番尊敬しているのは、ある中学校の野球経験のない監督さんです。」とも…。

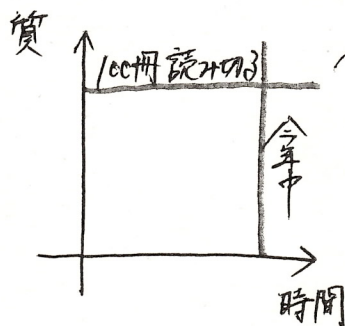
そんな須江先生が大切にしていることは、「何かをクリアしてから次のステップへ行く」ということだそうです。そして、その際、2本の軸で考えればよいとアドバイスをもらいました。2本の軸とは、「クオリティライン(質;何を、どこまでやるか)」



と「タイムライン(時間;いつまでにやるか)」です。これをとことん具体的に、明確にして、生徒は日々練習しているのだそうです。これをしないと、時間が経ってから「いろいろなことをやってきたけど、結局、何ができるようになったんだ?」と思ってしまい、結果的に、そこから自信が生まれることは少ないと説明されました。だからこそ、具体的なスモールステップを数多く作り、それをクリアする経験を積み重ねていくことが大切だということ学びました。そして、その時に「数字」などの基準を使うと効果的だと学びました。野球以外でも、部活や勉強、仕事、…何にでも通じることですね。

図1の

いざ実践! 2本の軸で考える 100冊プロジェクト



具体化: 2017年12月31日までに100冊の本を読み。

現状: 11月7日の時点で62冊 = あと38冊

★あと54日で38冊
 → 1日あたり0.7冊

行動あるのみ!!!

100冊-37冊... 70冊-37冊
 200冊-37冊... 140冊-37冊
 300冊-37冊... 210冊-37冊
 読めばOK!!